



全学級オンライン授業



夏休み明け、前期後半は8月26日（木）から始まる予定でしたが、感染拡大がおさまらないため、9月1日（水）に一旦延期しました。ただ、県の感染ステージも上がり、感染者も増加している状態で、公共交通機関の利用に不安もあったため、登校して対面による授業開始を9月13日（月）まで遅らせ、9月1日から10日まで、全学級オンラインで授業を行うこととしました。これまでも、

何度かオンライン授業を行ったことはありましたが、これだけの期間、毎日、数時間の授業を行うのは初めてでした。授業の準備をする先生方も、通常の対面授業とは勝手が違うので、準備にどの程度の時間や労力がかかるのかわからない状態でした。先生方のオンライン授業技術も、全員同じではありません。そこで、この期間中、放課後に自主的に研修会を開催し、オンライン授業でどんなことができるのか情報交換を行い、次の日にそれを実行してみるという日が続きました。情報交換と実践を繰り返すことで、先生方の技術も高まった期間になったと思います。子供たちにとっても、一斉オンラインになると、こんなふうになるのだということが分かったと思います。期間中は、近隣の学校の先生方も参観に来ておられ、附属の先生方の取り組みを参考にさせていただくことができましたと思います。ただ、ここまで実施できたのは保護者の皆様のおかげです。急な変更にご理解ご協力ありがとうございました。



全校児童参加

9月8日は全校児童が登校しました。といってもこの期間はオンライン授業をしていたので、画面上での全員登校でした。コロナ禍ではありますが、全員元気に過ごしていることが分かって安心しました。

今後、あってほしくはありませんが、コロナウイルス感染者が見つかった場合、インフルエンザによる学級学年閉鎖をしなければならなくなった場合には、状況に応じてオンライン授業の実施も検討していくことになります。

タブレット端末といじめ防止



東京都の小学校で、昨年度、タブレット端末のチャット機能を使ったいじめによる児童の自殺があったことが報じられています。どんなに便利なものでも使い方を間違えると大変なことになります。一部報道によると、その学校はICT教育の先進モデル校だそうです。本校でも、学校や家庭でもタブレットの活用を進めています。学校でも活用方法と共に、ネットモラル等についても指導は行っています。ただ、家庭に持ち帰ってからの使用方法や使用時間については、ご家庭の協力も欠かせません。お気付きの点があれば、いつでもお知らせください。

教室の後ろにLED照明設置



以前、担任していた平成10年前後から気になっていたことの一つが教室の照明でした。普通教室の前半分は、黒板灯を含めて14本の蛍光灯がついていますが、後ろ半分は6本しかついていません。教室の後ろの方は暗くなってしまいます。視力のよくない子供が多いのは、学習時間の長さだけでなく、これも原因の一つではないかと思っていました。ただ、以前は児童用ロッカーがあったのでそれ程後ろの方までは使っていなかったのですが、コロナ禍でロッカーをワークスペースに出し、教室全体に座席を広げているので、照度不足が気になっていました。先月の職場環境パトロールの際に、何とかならないかとお願ひしたところ、普通教室後方にLED照明をつけていただけることになり、夏休み中に工事が終わりました。子供たちの視力低下を少しでも防ぐことができたらと思っています。もう一つ明るさで気になっていたことは、校舎の向きです。学校という施設の多くは、教室の窓が南側に向き、一日中光が入りやすいように建てられています。ですから階段は、東階段・西階段がほとんどです。ところが、附属小中学校の窓は東側を向いており、階段は北階段・南階段です。敷地の都合で仕方なかったのでしょう。こればかりはすぐに何とかなるものでもありませんが、いつの日か校舎改修の際に、誰かが覚えていて進言してくれるといいのですが。

「できる・分かる」を「伝える・教える」



学校での学習内容が少しでも多く子供たちに定着することは、私たち教員とご家庭の方との共通の願ひだと思います。そのための一つの方法が「繰り返す」です。主に宿題がこれにあたります。学校で学んだことを家で繰り返して定着をねらっています。それと同じくらい「伝える・教える」こともキーワードだと思います。できるようになったこと・分かったことを、誰かに伝えたり教えてあげたりすることによって、一層の定着が図られます。学校の授業でも「ミニ先生」等と称して、できる子ができない子に教える場面もあります。このとき、分からない子が分かるようになるとともに、教える子もより分かるようになります。もしできたら、「学校で勉強したことを家の人に教えてあげる」ことが家庭で続けられると、子供たちの学習の定着度合も変わってくるのではないかと思います。お子さんと相談の上、一日の学習の中で一つでも二つでも聞いていただく機会があるといいのではないのでしょうか。(副校長 草野 剛)